



# 一中だより

2月号  
令和7年2月3日  
小平市立小平第一中学校

## ■いま求められる「探究」のちから

校長 栗林 昭彦

1月の始業式の際、生徒に「2025問題」についての話をしました。今年2025年、75歳以上の後期高齢者が人口の20%を超え、65歳以上の割合も全人口の3分の1になるといいます。つまり我が国が本格的な少子高齢化社会に突入するという、そのことを指して「2025問題」というのだそうです。中学生の諸君にはピンとこないことだったかもしれませんが、これからの自分たちが生きてく社会のありようを知っておくことは重要なことだと考え、話をしました。さらにその中で、そういうこれまで経験のないような社会の中で、どうやってみんなが幸せに過ごせるようにしていくかを考え、実行していくのが皆さんの務めであり、そのための力をいま中学校で付けているのだということ意識して過ごしてほしいと伝えたわけです。

さて、そこで改めて考えます。中学生の諸君はそのような社会で皆が幸せに生きていけるようにするために、どんな力を身に付けるべきなのでしょう。たとえば「共感力と協力意識」「自己管理能力」「学び続ける姿勢」「柔軟性と適応力」「持続可能な思考」「コミュニケーション能力」等が考えられるでしょう。であるならば私たち中学校は、毎日の学習活動がこういった資質を身に付けさせるために機能しているかどうかを日々モニタリングしていかないといけないということになります。先生が黒板に書くことを黙って写すような授業のありようでは、当然前述したような力は身に付きません。

社会の変化は少子高齢化だけではなくありません。急速な情報化の進展も重要な要素です。ちなみにこの文章の前の段落の文章はほぼ生成AIが作成したものです。1年前には想像もできなかったことです。こうして社会の様々な場面に、人間より早く正確に、安価に仕事をするAIがすさまじい勢いで入り込んでくる。そのことも認識していないといけません。

少子高齢化や情報化が進み、その他にも予測困難な多くの変化が待ち受けるこれからの時代を生きていく生徒たちに必要な力はどのようなものなのか。少なくとも、計算問題を解いたり漢字の書き取りをしたり、という力だけではないことは確かです。現在、そのことに社会全体が気づき、様々なことが変わり始めています。保護者会の際にもお話したように、渋谷区ではすべての小中学校の午後の授業をこれまでのような教科の勉強ではなく、自ら課題を立てて調べたり考えたりする「探究」の時間に充てることとしたといえます。先月実施された大学入学共通テストも、知識そのものを問う問題ではなく、様々な資料を読み解きながら考えたり判断したりするタイプの問題が主になっています。いずれにしても「教えてもらう」受け身の勉強は過去のものになりつつあるということです。

小平一中では、昨年、今年の2か年にわたり、小平市教育委員会の研究指定を受け「自ら課題を立て解決する力を身に付けさせる指導法の工夫～探究学習の取組を通して」に取り組んできました。前述したような社会の状況、また現在の公立中学校の置かれた状況に鑑み、どうやって必要な力を身に付けさせていくかという取り組みで

す。このことに係る研究発表会を右の要領で開催します。ぜひ保護者、地域の皆様にもご覧いただきたく、ご案内します。当日は、すでに様々なところで探究学習やそれに関わる実践を進めておいでの方々をお招きしたパネルディスカッションも行います。

ぜひ、本校に関わる多くの皆様に、今後の教育の目指す方向性を知っていただき、共有できたらと思っております。ご多用の中とは存じますが、お運びいただければ幸いです。

### 小平第一中学校研究発表会

令和7年2月13日(木)

授業公開 13:30～

研究発表会 14:40～

ホームページ上にも詳細を掲載しています。合わせてご覧ください。

